

教科用図書調査報告書

甲府市教科用図書採択審議委員会

- 1 種目 音楽（器楽合奏）
2 報告概要

教科書名 出版社名	特 徴
中学器楽 『音楽のおく りもの』 教育出版社	<p>(1) 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することができる内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭のカラーページが工夫され、世界中の楽器が演奏する様子とともに紹介されている。本編でのページも記載され、様々な音楽文化と関わる入り口として配慮されている。 ・一般の教科書と同様に、「何が同じで、何が違う？」というコーナーで東西の管楽器や弦楽器の発音の仕組みが比較できるように取り上げられ、実感を伴った理解による「知識」の習得ができるように工夫されている。さらにその発展で、「吹く楽器の仲間たち」「弾く楽器の仲間たち」として世界の諸民族の楽器が同じ発音の仕組みとしてまとめられ、興味を広げられるように工夫されている。 ・p 71 と p 77 に「不思議な旋律」という教材が配置され、音楽的な見方・考え方を働かせながら表現が工夫できるように配慮されている。 ・アニメ映画のテーマ曲が箏の合奏に編曲されていたり、シンセサイザーによる楽曲が取り上げられていたり、ジャンルや世代を超えて音楽文化に触れられるように工夫されている。 ・p94～97では「名曲旋律集」として、一般の教科書で取り上げられている鑑賞教材やその楽曲に関連する旋律が掲載され、鑑賞と器楽を結びつけて実感を伴った理解による「知識」の習得ができるように工夫されている。 <p>(2) 実践的・体験的な学習を行うことができるよう配慮されており、生徒の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リコーダー、篠笛、尺八、ギター、箏、三味線、太鼓の、管、弦、打の順で掲載されている。 ・和楽器用のポップスの楽譜が1つ掲載されており、興味や関心に応じた内容になっている。 ・実際の演奏者からのメッセージが掲載されており、興味や関心に応じた内容になっている。 <p>(3) 「A 表現」と「B 鑑賞」の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の構成として、前半は管楽器、後半は弦楽器から打楽器へと配列されている。また、各楽器の教材は入門から技能の習得、表現や音色の工夫まで段階的に配置されている。 ・合奏教材の「不思議な旋律 PART1・2」(P71 P77)には、共通事項である音楽を形づくっている要素の中から、旋律、リズム、音色、構成を取り上げ、仲間と意見交換しながら合奏を完成させる学習が設定されている。また、後半には協働的な学習として、合奏教材が掲載

	<p>されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「何が同じで、何が違う？」(P27 P53)の「発展」では、各楽器の成り立ちや伝統などについて仲間と意見交換する場面も設定されている。 <p>(4) 音楽の記号及び用語，図や写真，挿絵等が適切であり，自己のイメージや感情，生活や社会，文化などに関連付けやすいよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表紙見開き 2 ページに世界のいろいろな楽器の写真を取り上げている。 ・「リコーダー」「篠笛」「尺八」「ギター」「こと」「三味線」「たいこ」については，それぞれの楽器の特徴や奏法についてわかりやすく丁寧な写真と説明で解説している。 ・用語や記号が裏表紙見開きにあることで，一目でそれぞれがもつ意味や速度や強弱の変化が理解しやすい。 ・ギターとキーボードコード表があること，運指写真と鍵盤図があることで，生活の中で実際に演奏してみたいという意欲がわくように配慮されている。
<p>『中学生の器楽』 教育芸術社</p>	<p>(1) 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，音楽的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の音や音楽，音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することができる内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭のカラーページが工夫され，メディアでも取り上げられるアーティストの楽器を通しての音楽との関わりや，世界中で人々が楽器とどのように関わっているかが取り上げられている。 ・p 8～9 で学習内容が一望でき，「音楽を形づくっている要素」を含め，それぞれの教材で何を学習するのかがわかりやすくまとめてある。学習前後に学習内容を確認することができ，音楽的な見方・考え方を働かせやすい。 ・「アンサンブルセミナー」のコーナーでは，一般の教科書と同様に「音楽を形づくっている要素」が示されるとともに，キャラクターによる対話を通して音楽的な見方・考え方を働かせられるように工夫されている。 ・p75には「バンドの世界をのぞいてみよう」として，ロックバンドのスコアや活動の様子が紹介され，現代の音楽文化と器楽との関わりが取り上げられている。 ・p76～95の「アンサンブル」やp96～99の「楽器でMelody」で，J-POP，ジャズ，クラシックなどの親しみやすい旋律が数多く紹介されている。特に，J-POP の旋律が和楽器で演奏できるように編曲されているものもあり，音楽文化と様々な関わり方ができるきっかけになりうる工夫がされている。 ・P104～105には「楽器の図鑑」として和楽器や世界の諸民族の楽器なども分類して示され，興味を広げられるように工夫されている。 <p>(2) 実践的・体験的な学習を行うことができるよう配慮されており，生徒の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。</p>

- ・和楽器用のポップスの楽譜が3つ掲載されており、実践的・体験的に学習を行うことができるようになっている。
- ・実際の演奏者からのメッセージが掲載されており、興味や関心に応じた内容になっている。

(3) 「A 表現」と「B 鑑賞」の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。

- ・前半にアンサンブル教材が配置され、「深めよう！音楽」(P11 P13 P15)により、対話的な学習が配置されている。各楽器に関連する教材は、一般的な知識、構造、技能が段階的に配置されている。
- ・学習内容一覧に、共通事項である音楽を形づくっている要素が示されている。また、「アンサンブルセミナー」では、示された音楽を形づくっている要素を手がかりに、表現の工夫について考え、対話する学習が設定されている。また、後半には協働的な学習として合奏教材が掲載されている。
- ・「深めよう！音楽」(P11 P13 P15)では、生徒役キャラクターの吹き出しにより、表現の工夫についての対話が例示されている。また、演奏において留意する点が写真などを交えて示されている。
- ・生徒が小学校から演奏している身近なリコーダーの学習では、楽器の手入れ、美しい音の出し方、響かせ方、音を合わせるときのコツなど丁寧に構成されており、自主的な学習が進められやすい。

(4) 音楽の記号及び用語、図や写真、挿絵等が適切であり、自己のイメージや感情、生活や社会、文化などと関連付けやすいよう配慮されているか。

- ・表紙見開きページには、ピアニストからの生徒へのメッセージが演奏しているときの写真とともに載っている。「オーケストラと演奏するのは、チームプレー」「大切なのは、何気ない挨拶や会話を交わして、演奏するメンバーと仲良くなること」という言葉があり、音楽を通して人と関わることの大切さを関連付けやすいよう配慮されている。
- ・P4・5では、17種類の世界の国々の楽器が大きく写真で紹介されていて、実際に現地の人がある楽器を演奏している写真を載せることで生活や文化などと関連付けやすい。
- ・「リコーダー」「篠笛」「尺八」「ギター」「こと」「三味線」「たいこ」やさまざまな打楽器の仕組みや特徴、奏法など大きな写真を取り入れながら、わかりやすく説明している。
- ・P33 ギターの種類を大きく写真で載せることで、生活の中で生徒が実際に聴いているミュージシャンの音楽と関連づけやすい。
- ・生徒が卒業後も楽器演奏を含めた音楽活動で使用できる、ギターとキーボードに対応したコード表が掲載されている。
- ・巻末資料では「楽器の図鑑」として見開き2ページを使い、様々な楽器を7つに分類して大きな写真でわかりやすく紹介している。